

(医) 田中会田中病院の病床運用について

2022.1.19 資料

医療法人田中会田中病院 作成

①、②を一連計画として検討

コロナ感染症の件もありこの1年タイミングを計っていた現状

② ①の物理的な病室改修したことにより患者安全管理環境の必要性の改修

① 現状の受け入れ入院患者に合わせた改修

令和2年度 地域一般病床（回復期）の一部改修を実施、3床のダウンサイジング。

令和3年度 療養病床の一部改修実施、3床のダウンサイジング。

現状

病床構成・施設基準

地域一般入院基本料3	37床
療養病棟入院基本料1	77床
合計	114床

階またぎの病棟管理の解消

各階ワンフロア詰所管理（案）

4階詰所管理で3階フロアにある地域一般病床（回復期）8床を、3階詰所管理の療養病床（慢性期）へ移行

3階詰所管理で2階フロアにある療養病床（慢性期）6床を、2階詰所管理の療養病床へ移行



病床構成・施設基準

療養病床	2階フロア45床
	3階フロア40床
一般病床（回復期）	4階フロア29床
合計	114床

4階フロア地域一般病床（回復期）を療養病床（慢性期）へ変更
そのため構造物等の施設基準に基づく病床の減床（-11床）

病床構成・施設基準
療養病床
2階フロア45床
3階フロア40床
4階フロア18床
合計 103床

検討に至る理由

入院患者構成・患者状態（症状）による理由

当院入院患者の高齢化がここ数年で進行
地域一般病床の入院患者年齢構成

70歳～79歳 23.7%

80歳～89歳 40.2%

90歳以上 17.7%

70歳以上の入院患者の占める割合 81.6%

ほとんどが急性期病院から
在宅への退院・施設入所が困難または、
リハビリが必要な高齢者の受け入れ。

一部、急性期病院と同様の治療継続の上、在宅退院される患者様もおられます。
治療・処置・リハビリを継続して在宅・施設への退院を目指していく中、病状や他条件により在宅退院・施設入所が困難との判断に至る患者様も多く、内容的に地域一般病床（回復期）にて療養病床的な入院内容に移行する患者様も多い。

入院患者構成・患者状態（症状）による理由

療養病棟への転棟待機状態もあり、在棟日数も長期化してきている。

上記のような理由により、平均在棟日数に関しては、60日前後という状況での運用。

（直近1年間（2022年1月～12月）の平均在棟日数62日、月別の最大在棟日数96日（7月））

地域性・立地による理由

当院の立地は、堺市医療機関の最北部に位置し、大阪市・松原市との隣接地域となっている。

地域別の入院患者分布

堺市	42.9%	堺市内の入院内訳	
大阪市	39.0%	堺市北区	65.9%
松原市	9.5%	堺市堺区	31.8%
他合計	8.6%	堺市他区計	2.3%
		ほぼこの2区からの入院	97.7%

令和4年12月実績

病院所在地域・隣接自治体が占める構成比率

入院全体の76.2%（8割弱） 令和4年12月実績



隣接自治体（大阪市南部・松原市）を除外した堺市のみの数字だけでは、当院の必要度は評価が困難と考える。

堺医療圏においては
慢性期が過剰病床となっている状況は十分理解している。

- ① 当院の地域一般病床の現状
- ② 堺市急性期医療機関・隣接地域急性期医療機関から
当院への療養目的含めた入院依頼が多く占めている状況

当院の立地・地域性と当院の運営実情にあわせ、
地域から期待されている医療内容とするため、
地域一般病床（回復期）を、療養病床（慢性期）としての運用を検討。

病院運用について

現在の入院加療における受け入れ体制・治療内容は、
今後も現状通り

人工呼吸器装着状態の患者の受け入れ
リハビリ目的入院
長期入院
施設入所につなぐ為の入院
在宅に向けての治療・処置継続入院など